

開 会 式

開会式（大学教育棟2014 521教室） 19日（土）13：50～14：20

ご挨拶

日本音楽教育学会会長 権 藤 敦 子
玉川大学芸術学部長 中 島 千 絵
第55回大会実行委員長 野 本 由紀夫

基調講演

「全人教育とこれからの教員養成」 1
玉川大学学長・玉川学園副学園長 小 原 一 仁

基調講演関連映像

「玉川の音楽教育」 Music Education at Tamagawa Gakuen & Tamagawa University

大会実行委員会企画

音楽科教員の現状とこれからの教員養成 —AI時代の音楽・教育—

シンポジウム（大学教育棟2014 521教室） 19日（土）14：30～16：30

音楽科教員の現状とこれからの教員養成 2
—AI時代の音楽・教育—

シンポジスト：京都教育大学附属桃山小学校 高 橋 詩 穂
東京都杉並区立杉森中学校 阿 部 みどり
埼玉県立浦和高等学校 櫻 井 寛
北海道教育大学旭川校 芳 賀 均
東京藝術大学 市 川 恵
玉川大学 伊 原 小百合
文部科学省 河 合 紳 和
企画・司会：玉川大学 野 本 由紀夫
司会補佐・アシスタントシンポジスト：玉川大学 清 水 宏 美

常 任 理 事 会 企 画

プロジェクト研究 (602) 20日 (日) 13:20 ~ 15:00 8
 GIGAスクールのこれまでとこれから

戸田市立戸田第一小学校 小 梨 貴 弘
 筑波大学附属小学校 平 野 次 郎
 渋谷区立渋谷本町学園中学校 今 井 由 喜
 司会・進行：宮崎大学 菅 裕

研 究 発 表 (口頭発表)

研究発表A (501) 19日 (土) 9:30 ~ 13:00

司会：寺田貴雄 (北海道教育大学)・長井覚子 (白梅学園短期大学)

- | | | |
|-----|--|--|
| A-1 | 北米の音楽教育哲学の日本と中国における受容と影響の比較 9
—「美的」論と「プラクシス」論を中心として— | |
| | 東京音楽大学大学院生 李 孝 雯 | |
| 2 | 1930年代の音楽教師たちは音楽教育の何を語ったか 10
—雑誌『学校音楽』掲載「学校音楽座談会」の分析— | |
| | 京都教育大学 檜 下 達 也 | |
| 3 | 戦後のお茶の水女子大学附属幼稚園における音楽リズムの特徴 11
—雑誌『幼児の教育』(昭和22年~昭和39年)の分析を通して— | |
| | エリザベト音楽大学大学院生 亀 澤 由 衣 | |
| 4 | 1865年-66年における王立音楽アカデミーの教育体制とその問題点 12 | |
| | お茶の水女子大学大学院生 山 田 真理子 | |
| 5 | 音楽学習におけるハビトゥスに関する基礎的検討 13 | |
| | 埼玉大学 森 薫
東京藝術大学 磯 直 樹 | |
| 6 | 教育音楽研究大会と全国訓導協議会の文部省諮問とその審議・答申にみる
「芸能科音楽」創設過程の解明 14 | |
| | 和歌山大学 菅 道 子 | |
| 7 | わらべ唄(?)《うさぎ》に秘められた謎 15
—謡曲《竹生島》を手がかりにその謎を解く推論— | |
| | 愛知教育大学名誉教授 村 尾 忠 廣 | |

研究発表B (502) 19日(土) 9:30～12:30

司会：疇地希美(同朋大学)・小川容子(岡山大学)

B-1	ウェアラブル視線計測装置を用いた演奏時の視線計測に関する紹介	16
	仙台大学 山口 恭正	
	仙台大学 橋本 智明	
2	中学生の歌唱における「音痴」意識に関する縦断的研究 —学年差・性差に着目して—	17
	文教大学 小畑 千尋	
3	演奏者と聴衆の間の相互作用 —同期や同調を促すパラメータに着目して—	18
	愛知東邦大学 水野 伸子	
4	ピアノの鍵盤のスピードヒーターの研究開発 —冬のピアノ練習などでの指の冷えや腱鞘炎の予防—	19
	フルテクニカル音楽教室 古川 和邦	
5	音楽ワークショップ型授業が児童に与える影響 —実践的アプローチと量・質的データの分析及び考察—	20
	山口芸術短期大学 小野 隆洋	
6	A Study on Design Methods for Elementary Music Classes Based on Embodied Cognition	21
	Jeonju National University of Education Choi, Euna	
	Jeonju National University of Education Choi, Jin Kyong	

研究発表C (503) 19日(土) 9:30～12:30

司会：水崎 誠(東京学芸大学)・高須裕美(岡山大学)

C-1	2歳未満児と母親のスキンシップを伴う歌遊びにみる音楽性 —2組の母子の事例の分析を通して—	22
	エリザベト音楽大学大学院生 森 澤 麗	
	エリザベト音楽大学 藤 尾 かの子	
	佐賀女子短期大学 戸 江 真 以	
2	機械学習に向けた幼児の音楽的表現の定量的分析による特徴量の有効性 —動作解析と眼球運動の同時解析をとおして—	23
	常葉大学 佐野 美奈	
3	保育園の乳幼児の他者との歌・リズムを介したやりとりの変遷	24
	神戸大学大学院生 朝比奈 茉穂	
4	音楽専門家と保育者との連携による音楽表現活動の展開 —ドイツでの事例分析を中心に—	25
	東洋大学 山原 麻紀子	
5	幼児の創造的な音楽表現活動に関する研究(2) —幼児が音とかかわる姿の変容プロセスの検討—	26
	名古屋市立大学大学院生 南 谷 悠子	

- 6 幼児の音楽的な創造活動に与える心理的安心感の影響 27
 —養育者の援助で手遊び歌を習得する過程に着目して—
 兵庫教育大学大学院生 廣 畑 まゆ美

研究発表D (504) 19日 (土) 9:30 ~ 13:00

司会：阪井 恵 (明星大学)・長谷川慎 (静岡大学)

- D-1 音楽表現の広がりと言楽的コミュニケーション 28
 —特別支援学級における音楽づくりの実践を通して—
 帝京大学 目 戸 郁 衣
 流山市立八木南小学校 浅 間 里 華
- 2 音楽を形づくっている要素に着目した題材相互の関連の提案 29
 東京都西部学校経営支援センター 浅 田 裕
 公益財団法人音楽鑑賞振興財団 藤 沢 章 彦
- 3 日本の小学校低学年における鍵盤ハーモニカ指導の実態調査 30
 —「タンギング」「運指」「音色」の指導内容を中心に—
 川村学園女子大学 奥 田 順 也
- 4 生徒が創作活動に取り組みやすくするための「一定の条件」について 31
 —中学校における授業実践を通して—
 明星大学 荒 木 美 香
- 5 「視覚誘導型音楽づくり」の実効性、有用性についての研究 32
 富山国際大学 湯 澤 卓
- 6 自国の伝統音楽の学習指導に関する研究 33
 —韓国の小中学校音楽教科書と音楽授業からの考察—
 千葉大学 本 多 佐保美
 小田原短期大学 大 田 美 郁
 ソウル大学 権 惠 根
- 7 音楽科教育における批評活動の現状と課題 34
 —中学校音楽科教員を対象とした質問紙調査より—
 東京学芸大学大学院生、共立女子大学 末 廣 杏 里

研究発表E (510) 19日 (土) 9:30 ~ 13:00

司会：今田匡彦 (弘前大学)・井本美穂 (岡山理科大学)

- E-1 ノルウェーの学校におけるコミュニティ音楽療法の援用 35
 —STALWARTSプロジェクトの検討を中心に—
 福島大学 杉 田 政 夫
 名古屋芸術大学 伊 藤 孝 子
- 2 Effects of Piano Practice on Anxiety in Teenagers and Young Adults 36
 The University of the West Indies Akombo, David

3	軽度知的障害特別支援学校歌唱指導における困難さの検討	37
	—保育教員免許状及び担当教員のキャリア段階に焦点を当てて—	
	東京学芸大学大学院生 五十嵐 悠 葵	
4	肢体不自由特別支援学校におけるICTを活用した鑑賞活動の実践	38
	筑波大学附属桐が丘特別支援学校 荒 木 哲 弥	
5	特別支援学校での「まもりうたをつくろう！」の実践報告	39
	—DA/LEDA「わたしのこもりうた」作詞作曲メソッドの展開—	
	DA/LEDA 松 岡 久仁子	
6	「音楽」を介在させた相互交流を促すための工夫や手立てに関する事例研究	40
	—ダウン症者Aさんとの「音楽」活動を通して—	
	川崎市立中央支援学校 木 下 陸 央	
7	特別支援学校におけるオーダーメイド・アウトリーチ	41
	—滋賀大学教育学部附属音楽教育支援センターおとさほの事例をもとに—	
	滋賀大学 林 陸	

研究発表F (511) 19日 (土) 9:30 ~ 12:30

司会：伊野義博 (新潟大学)・川口明子 (岩手大学名誉教授)

F-1	親子を対象とした県産スギによるカホン作りと演奏会の取り組み	42
	—保育学生と木工・音楽の専門家との協働をもとに—	
	高田短期大学 山 本 敦 子	
2	考古学と音楽教育の連携4	43
	—社会科・音楽科・家庭科・体育科との教科等横断型授業実践の試み—	
	國學院大學栃木短期大学 早 川 富美子	
	国立歴史民俗博物館 中 村 耕 作	
	新潟市立早通南小学校 渡 辺 ゆみ子	
3	スリランカにおける青年海外協力隊の音楽教師教育に関する取り組み	44
	広島大学大学院生 カラニ ランガニ	
	広島大学 伊 藤 真	
4	音楽表現指導におけるモンテッソーリ教具「雑音筒」の導入と評価	45
	—保育者養成課程の取り組みから—	
	名古屋女子大学短期大学部 安 藤 恭 子	
5	コミュニティ・アートから考える地域の音楽実践	46
	—反ロマン主義としての参加型アートを越えて—	
	弘前大学大学院生 三 村 咲	
6	教員養成課程における和楽器を用いた即興演奏の実践	47
	鎌倉女子大学 田 村 にしき	
	宮 内 基 弥	

研究発表G (512) 19日(土) 9:30～12:30

司会：津田正之(国立音楽大学)・今川恭子(聖心女子大学)

- G-1 中学校音楽科教育における生成AI活用の可能性 48
—3つの観点からのアプローチ—
玉川大学 露崎 義 矢
- 2 合唱活動の充実とwell-beingに関する研究 49
—小中学生の尺度モデル構成・調査結果の分析を通して—
山口大学 高橋 雅 子
- 3 総合大学における「対位法」教育の課題と有効性 50
—「和声学」との比較を交えて—
玉川大学 今野 哲 也
- 4 韓国初等統合教科における教科横断的な音楽の位置づけに関する一考察 51
—教科書と教師用指導書の分析を中心として—
広島大学大学院生 佐藤 真由子
- 5 自己の思いを具体的に表現できる児童の育成を目指した音楽科授業づくり 52
名古屋市立桃山小学校, 愛知教育大学大学院生 山口 泰 幸
- 6 福島県における民俗芸能と学校教育の連携に関する一考察2 53
—福島県小野町「小野大倉獅子舞」と小野町立小野小学校の連携事例の実際—
NPO法人民俗芸能を継承するふくしまの会 山崎 純 子
福島県小野町立小野小学校 斉藤 駿

研究発表H (513) 19日(土) 9:30～12:30

司会：鈴木慎一郎(鳥取大学)・清水 稔(弘前大学)

- H-1 国際バカロレア教育を支える理論についての一考察 54
—探究学習における経験主義に着目して—
愛知県立芸術大学 松永 洋 介
- 2 学校音楽教育におけるウェルビーイングについて考える 55
—フロー理論に注目して—
信州大学 齊藤 忠 彦
- 3 3人の小学校女性教師が語る音楽教育 56
—1970年代から2020年代へ—
奈良女子大学 藤井 康 之
福山市立大学 古山 典 子
- 4 小学校高学年合唱における、思いを具現するための思考の過程 57
—音楽を形づくっている要素の生かし方—
新潟県長岡市立大河津小学校 平出 久美子

- 5 わらべうたあそびから音楽の読み書きへ 58
 —小学校3年生を対象に—

大阪市立小学校 土井 那帆子

実践女子大学 小坂 光

東北大学大学院生 八木 美華

東京インターハイスクール，郁文館夢学園

中・高等学校・グローバル高等学校 鈴木 太一

- 6 国際バカロレアPYPにおける採用しづらい「概念」に基づく
 音楽の授業構想 59
 —教師を対象とした質問紙調査の結果と既存教材に基づいて—

早稲田大学 稲生 涼子

研究発表 I (501) 20日(日) 9:00～12:00

司会：田中里佳(三重大学)・國府華子(愛知教育大学)

- I-1 ICT活用は児童の思考にどのような影響を及ぼすか 60
 —GarageBandを用いない音楽づくり授業との比較検討より—

広島大学大学院生，和歌山大学教育学部附属小学校 北川 真里菜

- 2 音楽と共振する「体を動かす活動」 61
 —「鏡の活動」に着目して—

つくば市立春日学園義務教育学校 菊池 康子

- 3 メタ認知能力を高め，創造性を育むための音楽科・美術科・外国語科・
 保健体育科の授業開発 62
 —表現を試行錯誤する学習活動を通して—

広島大学附属三原中学校 井上 翔太

- 4 内的フィードバック能力を身に付けさせるための歌唱指導 63
 —さまざまな歌唱授業のあり方と「音高はずれ」の関係性—

北海道教育大学大学院生 山本 果英

- 5 3年間の合唱の学習における中学生の変容 64
 —エンゲストロームの拡張的学習理論の視点から—

実践女子大学 小坂 光

- 6 小学校音楽科授業におけるICTの活用による学習形態の変容 65
 —鑑賞領域での資質・能力の育成に着目して—

東京学芸大学大学院生 森 美里

研究発表 J (502) 20日(日) 9:00～12:00

司会：中地雅之(東京学芸大学)・檜下達也(京都教育大学)

- J-1 中学校音楽科の創作のためのリズムゲームを用いた作曲支援 66
 —メロディ作成に重点を置いた4小節の作曲ツール—

広島工業大学大学院生 中田 恭維

広島工業大学 梅村 祥之

2	フィンランドの作曲教育支援データベース「Opus1」を活用した創作学習 —日本の高等学校における試行—	67
	広島大学 徳 永 崇 島根大学 河 添 達 也 富山大学 多 賀 秀 紀 広島大学大学院生 徳 田 旭 昭	
3	小学生を対象とした音楽の構成要素を可視化するためのワークシート開発 —岐阜大学大学院生 飯 沼 広 樹 岐阜大学 今 井 亜 湖	68
4	ティンカリングによる作曲者の視点に立つ鑑賞活動 —プログラミング言語Scratchによる 《祝典序曲》の簡易オーケストレーション体験— つくば市立荃崎第一小学校 飯 泉 正 人	69
5	箏による「歌唱共通教材」の弾き歌い —小学校教員養成における学生のミュージシャンシップの育成をめざして— 川村学園女子大学名誉教授 尾 見 敦 子 箏曲生田流 平 田 紀 子	70
6	YouTubeを活用した器楽授業の実践とその考察 —教員がYouTuberになる教育的効果— 東京都立調布南高等学校 片 野 響 子	71

研究発表K (503) 20日 (日) 9:00 ~ 12:30

司会：中嶋俊夫 (横浜国立大学)・山本耕平 (大阪府立交野支援学校四條畷校)

K-1	音楽づくり活動における「思いや意図」に関する一考察 —小学校学習指導要領解説音楽編の記載内容の検討をとおして— 広島大学大学院 寺 内 大 輔	72
2	イギリスの初等音楽テキストにおけるアクティブ・リスニングの構造 —音楽づくりを通じた音楽の要素・音楽史の理解— 神戸女子短期大学 小松原 祥 子	73
3	「芸術と生活をつなぐワーク」としての「サウンド・エデュケーション」 —「生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と主体的に関わる」 音楽教育の検討— 弘前大学大学院生, 三郷市立栄中学校 石 川 裕 貴	74
4	小中学校の合唱活動のための発展的な教材の開発 —名曲の歌唱を通じた音楽体験の広がり— 岐阜聖徳学園大学 村 田 睦 美 元岐阜聖徳学園大学 加 藤 晴 子	75
5	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた課題解決型の授業実践 —第6学年「奈良・平安時代の音楽に親しもう」を通して— 鹿嶋市立中野西小学校 大 場 拓 哉	76

6	常時活動としての即興の意義	77
	—トーンチャイムを活用した音楽理論と演奏の同時的な学習の実践から—	
	東京純心大学 田 中 路	
7	エジプトの音楽教育における授業形態の傾向	78
	—異なる2教材を用いた授業動画分析から—	
	弘前大学 小 田 直 弥	
	東京学芸大学 森 尻 有 貴	
	東京学芸大こども未来研究所 長 澤 佳奈子	

研究発表L (504) 20日 (日) 9:00 ~ 12:30

司会：松永洋介 (愛知県立芸術大学)・杉田政夫 (福島大学)

L-1	ソヴィエトが生んだ, 国民生活に浸透した吹奏楽	79
	—現ウクライナでの吹奏楽の活動を含める考察—	
	大和市立光丘中学校 平 石 孝 太	
2	音楽教育者としての中山悌一	80
	—資料収集とインタビュー調査を通して—	
	活水女子大学 中 村 仁	
3	1980年代の桐朋幼稚園における「さぐり」を方法とした器楽活動	81
	—領域「音楽リズム」時代における子どもの「自主性」を求めた活動の展開—	
	白梅学園短期大学 長 井 覚 子	
4	フランスの初等・中等教育での音楽アウトリーチ導入に関する一考察	82
	—1970年代フランス音楽青年団 (JMF) による「学童演奏会」を中心に—	
	京都女子大学 田 崎 直 美	
5	中国におけるリトミック教育の現状に関する一考察	83
	—日本での受容過程をどう活かすか—	
	国立音楽大学大学院生 羅 方 玫	
6	オランダ市民吹奏楽団の音楽教育に対するアプローチ	84
	—日本人奏者へのインタビュー記録からの考察—	
	弘前大学 清 水 稔	
7	明治後半期の京都音楽会	85
	—演奏会プログラムの傾向に関する検討—	
	立命館大学, 日本学術振興会 丸 山 彩	

研究発表M (510) 20日 (日) 9:00 ~ 12:00

司会：菅 道子 (和歌山大学)・小川容子 (岡山大学)

M-1	音楽科教科書『小学生の音楽』の教材曲にみられるリズムの分析	86
	—世界音楽にみられる統計的普遍性との比較—	
	葛飾区立青戸小学校 平 野 悠 佳	
	東京学芸大学 小田切 舞 美	

2	鑑賞と表現を架橋する音楽ワークショップの評価研究	87
	東京藝術大学 酒井 雅代	
3	演奏不安研究における定性的手法の位置づけ	88
	—面接法に着目して—	
	産業技術総合研究所 吉江路 子	
	東京学芸大学 森尻 有貴	
4	雅楽の何が面白いのか	89
	—伝統音楽のよさを考えるために—	
	上越教育大学 玉村 恭	
	上越教育大学大学院生 大島 理紗	
5	ループリックによる自己調整学習を目指した声楽の授業構築に向けて (4)	90
	—ループリックに即した声楽テキスト作成の試み—	
	柴田学園大学 諏訪 才子	
6	わらべうたを用いた子どもへの関わりに関する研究	91
	—熟達したわらべうた講師から見た歌わない幼児が変容する プロセスに着目して—	
	名古屋市立大学大学院研究員 市川 愛実	

研究発表N (511) 20日 (日) 9:00 ~ 12:00

司会: 木間英子 (昭和女子大学名誉教授)・金奎道 (高知大学)

N-1	ロシア正教会の合唱指導	92
	—ソルフェージュ教育に注目して—	
	北海道教育大学函館校 長尾 智絵	
2	高等学校入学者選抜に関わる音楽の学力検査と中学校音楽科の実態	93
	—昭和30年代における各地の議論と対応に着目して—	
	福岡教育大学 鶴岡 翔太	
3	『茨城県総合郷土研究』における新民謡	94
	—《磯節》に着目して—	
	鳥取大学 鈴木 慎一朗	
4	音楽を語り合う場の分析	95
	—ワークショップ〈てつがくオンガクかふえ〉の実践から—	
	弘前大学大学院生 西野 亜唯	
5	移民・難民の子どもの文化適応に対する音楽の効果	96
	—ドイツの研究・事例報告—	
	岐阜聖徳学園大学 宮本 賢二郎	
6	The Efforts for Restoration, Establishment of the Identity of Korean Music Education by Korean Music Educators during the Post-Liberation Period	97
	—Mainly focusing on the Music Textbooks of Secondary School—	
	Ph.D. in Music Education at Seoul National University Lee Yoo Ro	

研究発表O (512) 20日(日) 9:00～12:30

司会：梶川祥世(玉川大学)・西田 治(長崎大学)

- O-1 エドガー・ウィレムスの音楽教育のフランス国内における展開 98
—L'éveil musical(音楽の目覚め)の実践に着目して—
岩手県立大学 若 林 一 恵
- 2 幼児のためのオペレッタの教材性 99
—現代の子どもたちとオペレッタのかかわりに焦点を当てて—
藤女子大学 川 見 夕 貴
- 3 生活の充実によりもたらされる歌唱活動の発達 100
—5歳児の歌「ツッピンとびうお」を題材に—
大阪芸術大学 津 田 奈保子
緑ヶ丘幼稚園 橋 本 弘 美
- 4 小学校第1学年の児童の音楽的なすがた 101
—保小をまたぐ縦断的な観察をとおして—
広島大学大学院生 武 島 千 明
- 5 保育で求められる沖縄の伝統芸能の知識及び三線の実践的な演奏技能とは 102
—沖縄の保育施設を対象とした沖縄の伝統芸能及び
三線に関する意識調査から—
沖縄女子短期大学 赤 嶺 絵 吏 子
- 6 「共に音楽すること」のできる身体になる経験 103
—ジャズ・プレーヤーの語りを手がかりとして—
山梨学院短期大学 田 邊 裕 子
- 7 石井漠の「子どもの舞踊」における音楽と舞踊の関係 104
—舞踊家が振り付けた「童踊」の童謡と舞踊の一体感に着目して—
エリザベト音楽大学大学院生 沖 中 春 志 郎

研究発表P (513) 20日(日) 9:00～12:00

司会：笹野恵理子(関西外国語大学)・三村真弓(エリザベト音楽大学)

- P-1 教員養成課程の学生における音楽リテラシーの実態 105
—音楽に関する学力調査を通して—
帝京大学 田 崎 教 子
- 2 人生100年時代におけるWell-beingを目指したりカレント教育への一考察 106
—「歳をとったら声は出ない」という既成概念を毀つ—
東邦音楽大学, 武蔵野音楽大学別科 藤 川 英 子
- 3 保育者に必要な歌唱表現 107
—歌詞をてがかりに—
名古屋文化学園保育専門学校 藤 田 桂 子
- 4 解釈的自律性と自律的学習行動の質問紙開発と両変数の相関関係の検討 108
—音楽大学・音楽高校の学生を対象にした質問紙調査の実施—
東京大学大学院生 藤 本 茉 里 恵

5	成人音楽学習者と音楽リテラシー	109
	—演奏実践に内在する楽しみと学びのバランスに着目して—	
	東北大学大学院生 八木美華	
6	小学校教員養成課程「音楽科指導法」で求めるべき「知識・技能」とは	110
	—学級担任として音楽科授業をするために—	
	植草学園大学 高木夏奈子	

研究発表Q (602) 20日 (日) 9:00 ~ 12:00

司会：齊藤忠彦 (信州大学)・森 薫 (埼玉大学)

Q-1	R. ペースの <i>Piano for Classroom Music</i> (1956)	111
	—ピアノを専攻しない米国の大学生が受講する「グループ・ピアノ」の調査—	
	江戸川大学, 放送大学 齊藤紀子	
2	地域を見つめ直す音楽教育実践の検討	112
	—岡山県内の公立小学校における即興演奏ワークショップを例に—	
	岡山大学 岡本伸介	
	富山大学 増田建太	
3	ピアノ弾き歌いの学習におけるマザリーズ導入が音楽的態度に及ぼす効果	113
	小田原短期大学 永田美奈子	
4	保育者・小学校教員養成系大学1年生のリズム模奏力に関する研究 (2)	114
	—調査と実践をとおして—	
	比治山大学 緒方 満	
	広島県立広島国泰寺高等学校 大西潤一	
	アボアエンジニアリング 高木栄次	
	広島大学名誉教授 吉富功修	
5	演奏に関連する障害予防における日本が今後取り組むべき課題	115
	山梨大学 赤池美紀	
6	豊かな音楽表現と音楽を語る言葉の獲得	116
	—連弾課題における学生の意識と演奏の変化—	
	同朋大学 疇地希美	
	同朋大学 吉村雅美	

研 究 発 表 (ポスター発表)

研究発表R (学生ラウンジ) 19日 (土) 11:00 ~ 12:00

座長: 山下薫子 (東京藝術大学)・秋葉桃子 (茨城大学)

R-1	総合表現活動によって培われる多様な力 (5)	117
	—初等・中等教育の事例を踏まえて—	
	兵庫教育大学大学院生 今 成 満	
	金沢大学・兵庫教育大学大学院生 浅 井 暁 子	
	上越教育大学 時 得 紀 子	
2	国楽器の音色を利用した〈教室の鐘作り〉の創意的な指導	118
	—国楽院の国楽デジタル音源—	
	ソウルイス中学校 丁 英 先	
3	包摂的環境を志向した場において演奏家に求められる実践力	119
	—子どもの居場所づくりに着目して—	
	東京藝術大学 船 越 理 恵	
	東京藝術大学 萩 原 史 織	
	元青山学院大学 土 屋 裕 希 乃	
4	超音波画像診断装置を活用した管楽器的演奏時における横隔膜の挙動	120
	—イメージワードによる教育効果の検証—	
	日本音楽家機能解剖学指導者協会 山 本 篤	
	玉川大学 加 茂 文 吉	
5	《Miyoshi ピアノ・メソッド》における「螺旋的な導き方」に関する考察	121
	—三善作成の講習会資料とメソッドの譜例を用いて—	
	国立音楽大学大学院生 東 郷 幸 輝	
6	保育者養成機関在籍学生のピアノ環境について	122
	—アンケート調査を中心に—	
	園田学園女子大学 辻 陽 子	
	園田学園女子大学 中 野 圭 子	
7	「天体と音楽」イベントのアンケート自由記述について	123
	追手門学院大学 太 田 公 子	
8	音楽の臨床的作用を活かしたことばを育てる音楽活動の実践	124
	—感覚統合と発声・発語の向上を目指して—	
	神戸大学大学院生 本 郷 み か	
9	音楽づくり活動における〈プログラミング的思考〉の評価方法の一考察	125
	—音楽づくり活動のためのWebアプリケーションの開発と実践を通して—	
	盛岡大学 長 山 弘	
10	音高感覚が伝わりにくい学習者に対する自身の声質を利用した練習の効果	126
	高崎健康福祉大学 佐 藤 和 貴	
	東北福祉大学 渡 会 純 一	
	東北大学 佐 藤 克 美	

11	音楽教育学分野における学術情報 —グローバルオープンサイエンスの状況—	127
	東海国立大学機構 松山久美	
12	School Music Education with the Community —Learn from the example of ORN Elementary School in Seoul—	128
	PhD candidate, Seoul National University Park Song-ie	
13	アーツプロフェル（Arts PROPEL）を活用したハンベ（한배）形式の 教授・学習方策の研究 —ザンゾ（散調, 산조）ザンダン（장단）を中心に—	129
	ソウル大学博士課程 李 梨 祕	
14	器楽アンサンブルクラスの構造化設計と 共有ピアノを使用したLT連携学習研究	130
	ソウル大学博士課程 文 賢 敬	

研究発表S（学生ラウンジ） 20日（日）11：00～12：00

座長：仙田真帆（鳥取短期大学）・藤井康之（奈良女子大学）

S - 1	Traditional Music Composition Classes Using Goryeo Gayo (Songs of the Goryeo Dynasty)	131
	Gyeongin National University of Education Donghee Lee	
2	キース・スワニックの音楽論 —音楽教育の基礎（1979）を基に—	132
	東京学芸大学 水 崎 誠	
	北海道教育大学釧路校 小 野 亮 祐	
	岡山大学 高 須 裕 美	
	東京学芸大学 有 澤 知 乃	
3	幼児の歌唱活動に関する調査 —評価方法の検討—	133
	金城大学 枝 村 美 夏	
	金城大学 岡 部 智 子	
4	「さわる」ことがもたらす打楽器による多感覚の音遊びの試み —乳幼児と保護者のための遊びの広場「トンパンボン！」より—	134
	東京成徳大学 長 野 麻 子	
	東京成徳大学 味 府 美 香	
5	今月のうたプランニング —保育学生が考える設定とその理由—	135
	帝京科学大学 飯 泉 祐美子	
	帝京科学大学 松 井 晴 美	
6	ジェンダー・ステレオタイプの音楽的発達 —幼児が音楽を聴く姿のフロー観察を加味した評価—	136
	岡山県立大学 安久津 太 一	
	京山保育園 寺 師 七 夏	

7	多文化音楽教育における旋律づくりの試み	137
	一定時制高校における実践を通して—	
	佛敎大学 井越尚美	
	京都橋大学 佐野仁美	
	大阪成蹊大学 岡林典子	
8	若手研究者が考える「わらべうた」のこれからⅡ	138
	—〈うたう・きく・つくる・のこす〉をキーワードに—	
	千里金蘭大学 伊原 幸馬	
	横浜国立大学 伊藤 裕来	
	桃山学院教育大学 山口 聖代	
9	スペインの初等音楽科における諸能力の育成について	139
	—身体表現活動を中心として—	
	信州大学 桐原 礼	
	CEIP ファティマ小学校 マルティネス・フェルナンデス, M. J.	
10	「しつけ手遊び」について音楽面から考える課題	140
	—一年次と二年次のアンケートを比較して—	
	鶴見大学短期大学部 芹澤 美奈子	
	鶴見大学短期大学部 山口 亜弥子	
11	音楽科教育における音楽史を学ぶための授業構想に関する研究	141
	国立音楽大学大学院生 山野内 彩乃	
12	音楽科と体育科におけるリズムに関する学習内容の共通点と相違点	142
	—教科書・副読本による小学校低学年の指導内容の分析より—	
	名古屋柳城短期大学附属豊田幼稚園 深松 佳範	
13	学校の内と外の音楽の「越境的学習」に着目した音楽科授業の構想	143
	東京学芸大学附属小金井小学校 倅山 恵	

共同企画

共同企画Ⅰ	シンポジウム (501) 19日 (土) 14:30 ~ 16:00	144
	編集委員会企画: 現場に立つ, 実践を見る, 実践を書く	
	—実践から研究論文を書くということ—	
	福島大学 杉田 政夫	
	滋賀大学 林 睦	
	弘前大学 清水 稔	
	日本女子大学 清水 睦美	
	聖心女子大学 今川 恭子	

共同企画Ⅱ ラウンドテーブル (502) 19日 (土) 14:30～16:00 145
降矢美彌子の目指した音楽教育3

—福島県浪江町「請戸の田植踊」の教材化と授業の実際—

NPO法人民俗芸能を継承するふくしまの会 山崎 純子
NPO法人民俗芸能を継承するふくしまの会 目黒 稚子
福島県浪江町請戸芸能保存会会長 佐々木 繁子

共同企画Ⅲ ラウンドテーブル (503) 19日 (土) 14:30～16:00 146
伴奏教育の現状とこれから

—伴奏ピアニスト育成のための有益なプロセスを探る (1) 歌曲分野—

昭和女子大学 赤塚 太郎
大分県立芸術文化短期大学 小林 道夫
武蔵野音楽大学 子安 ゆかり
安田女子短期大学 新海 節
東京藝術大学 丸山 滋

共同企画Ⅳ ラウンドテーブル (504) 19日 (土) 14:30～16:00 147
中学校音楽科授業における新しい視点に立った雅楽の教材化

—雅楽の特徴を生かした創作指導の試み—

東京音楽大学 和田 崇
宮崎市立大淀中学校 金本 志秀
千葉市立都賀中学校 中村 奈緒美
千葉大学 本多 佐保美
渋谷区立渋谷本町学園中学校 今井 由喜
日本女子大名誉教授 坪能 由紀子

共同企画Ⅴ ラウンドテーブル (510) 19日 (土) 14:30～16:00 148
音楽ゲーム再考 (2)

—手拍子まわしを通して幼小接続を考える—

千葉大学 駒 久美子
浦安市立入船認定こども園 浅野 千晶
足立区立足立入谷小学校 坂野 みどり
東京成徳大学 味府 美香

共同企画Ⅵ ラウンドテーブル (511) 19日(土) 14:30～16:00 149
 音楽の知識・技能の学びの連続性と〔共通事項〕の構造化
 —普通教育を貫くミュージシャンシップの育成—

埼玉学園大学 山本幸正
 川村学園女子大学名誉教授 尾見敦子
 郁文館中学校・高等学校 鈴木太一
 東京都公立小学校 北見響
 金城大学 枝村美夏
 東京家政大学 宮祐子

共同企画Ⅶ ラウンドテーブル (512) 19日(土) 14:30～16:00 150
 小学校教員養成課程「音楽科指導法」に関する情報交換しゃべり場(2)

植草学園大学 高木夏奈子
 明星大学 阪井恵
 共立女子大学 村上康子
 文教大学 小畑千尋

共同企画Ⅷ ラウンドテーブル (513) 19日(土) 14:30～16:00 151
 音楽科教育とナショナル・アイデンティティの形成
 —多文化共生を視野にいれて—

九州女子大学 城佳世
 国立音楽大学 津田正之
 茨城大学名誉教授 田中健次
 九州大学 施光恒

共同企画Ⅸ パネルディスカッション (501) 20日(日) 13:20～14:50 152
 「二刀流音楽教育」の実際と可能性

—伝統的な歌唱と西洋の声楽の両方を使いこなす児童・生徒・学生の育成—

明星大学、武蔵野音楽大学 山内雅子
 山田流箏曲演奏家、東京学芸大学 山口明子
 龍門寺副住職、武蔵野音楽大学 佐藤恩実
 山梨大学、北海道教育大学岩見沢校 山口裕加奈

共同企画Ⅹ ラウンドテーブル (502) 20日(日) 13:20～14:50 153
 オペラの舞台で育む創造性

—子どもたちが主役の創作活動とその教育的成果—

東京大学 大野はな恵
 滋賀大学 渡邊史
 作曲家 林きらら
 練馬区立立野小学校 磯部透
 滋賀大学 杉江淑子

共同企画XI ラウンドテーブル (503) 20日(日) 13:20~14:50 154
幼児音楽におけるPlayを考える

岡山大学 高 須 裕 美
東京学芸大学 水 崎 誠
東京家政学院大学 吉 永 早 苗
京都教育大学 平 井 恭 子
白梅学園大学名誉教授 無 藤 隆

共同企画XII ラウンドテーブル (504) 20日(日) 13:20~14:50 155
多文化地域の音楽科について実践的に考える
—外国につながる方々の語りから—

共愛学園前橋国際大学 八 桁 由布樹
NPO法人EdFuture 堀 佳 月
NPO法人ともくら ムロ オリバリ ブルネラ
岐阜県立加茂高等学校 バグシカン カリル
東京都中野区立白桜小学校 一 條 昌 子
合同会社K-plus ジュゼブ フェラン ガリシア

共同企画XIII ラウンドテーブル (510) 20日(日) 13:20~14:50 156
相対音感に基づく鍵盤楽器の指導
—大学での実践を通して—

洗足学園音楽大学 牛 頭 真 也
目白大学 小 林 恭 子
埼玉学園大学 東 元 り か
埼玉学園大学 山 本 幸 正
小田原短期大学 渡 邊 さらさ

共同企画XIV ラウンドテーブル (511) 20日(日) 13:20~14:50 157
声を使った音楽表現による学びの連続性
—校種間の連携を踏まえたカリキュラムの開発に向けて—

東京藝術大学 市 川 恵
元東京学芸大学 石 上 則 子
実践女子大学 泉 碧 衣
山梨県立大学 越 山 沙千子
日本女子体育大学 堤 由 衣

共同企画XV ラウンドテーブル (512) 20日 (日) 13:20 ~ 14:50 158
 表現主体として子どもが育つ音楽教育
 —「ふしづくりの教育」の温故知新一

東洋大学 桂 直 美
 エリザベト音楽大学 三 村 真 弓
 元愛知教育大学 村 尾 忠 廣
 元江戸川大学 猶 原 和 子

共同企画XVI ワークショップ (513) 20日 (日) 13:20 ~ 14:50 159
 未習得の楽器演奏を前提とした即興合奏
 —合奏を通して共創に必要な特性、資質を考える—

玉川大学 八木澤 桂 介
 玉川大学 平 社 和 也
 玉川大学 堀 場 絵 吏
 ワークショップデザイナーユニット グリサン 上 林 昭
 ワークショップデザイナーユニット グリサン 生 駒 隼 斗
 ワークショップデザイナーユニット グリサン 佐々木 玲 子

共同企画XVII ワークショップ (612) 20日 (日) 13:20 ~ 14:20 160
 脳波を計測して集中力をコントロールしながら指を開くワークショップ
 —ギター演奏におけるフィンガリングの暗黙知解明に向けて—

玉川大学 加 茂 文 吉
 日本音楽家機能解剖学指導者協会 山 本 篤
 (株) ニューロスカイ 伊津野 徹

共同企画XVIII デモンストレーション (501) 20日 (日) 15:10 ~ 16:40 161
 科学と音楽をつなぐワークショップの開発
 —つくってみよう電子楽器・電子音楽—

京都教育大学 増 田 真 結
 京都教育大学 檜 下 達 也
 大阪市立科学館 上 羽 貴 大
 アートマネージャー 村 上 理 恵

共同企画XX ラウンドテーブル (502) 20日 (日) 15:10～16:40 162
 「あたたため期」を刺激する創造性
 —境界を超える集団知と音楽—

岡山大学名誉教授 小川 容子
 福山市立大学 古山 典子
 岡山大学 早川 倫子
 岡山理科大学 井本 美穂
 鳥取短期大学 仙田 真帆
 新潟大学名誉教授 伊野 義博

共同企画XXI ラウンドテーブル (503) 20日 (日) 15:10～16:40 163
 現行学習指導要領を総括する
 —音楽科の評価について—

宮崎大学 菅 裕
 国立音楽大学 津田 正之
 信州大学 齊藤 忠彦
 佛教大学 高見 仁志

共同企画XXII ラウンドテーブル (504) 20日 (日) 15:10～16:40 164
 音楽思考の可視化を考える (3)
 —AI時代における学びの多様化—

文教大学 近藤 真子
 淑徳大学 熊倉 佐和子
 京都教育大学附属桃山小学校 高橋 詩穂
 筑波大学附属小学校 平野 次郎
 熊本市立必由館高等学校 中島 千晴

共同企画XXIII ラウンドテーブル (510) 20日 (日) 15:10～16:40 165
 学校教育における音楽の役割と意義 その4
 —ペンタトニックの広がり—

日本女子大学名誉教授 坪能 由紀子
 エリザベト音楽大学 三村 真弓
 高知大学 金 奎道
 作曲家 森田 泰之進
 たかやま音楽療法研究所 高山 仁

共同企画XXIII ラウンドテーブル (511) 20日(日) 15:10～16:40 166
 ポスト・ポスト構造主義の音楽教育
 —子どもたちの生活世界とオンガク, そしてその評価を考える—

弘前大学 今 田 匡 彦
 琉球大学 塚 原 健 太
 青森明の星短期大学 千 葉 修 平
 弘前大学 高 橋 憲 人

共同企画XXIV ラウンドテーブル (512) 20日(日) 15:10～16:40 167
 音楽と科学の融合アウトリーチを考える
 —「天体と音楽」実行委員会の活動を例として—

京都女子大学 荒 川 恵 子
 玉川大学 野 本 由紀夫
 京都大学大学院 齊 藤 昭 則
 大阪樟蔭女子大学 山 崎 晃 男

共同企画XXV ワークショップ (513) 20日(日) 15:10～16:40 168
 演奏者の健康をサポートする方法や考え方の体験
 —フランクリンメソッド, ディスポキネシス, メンタルトレーニング,
 耳鼻咽喉科の専門医からみた演奏者の症例傾向と予防法—

山梨大学 赤 池 美 紀
 慶應義塾大学大学院生 田 中 朋 子
 東京藝術大学 福 富 祥 子
 エアフルト大学 大 木 美 穂
 さいだ耳鼻咽喉科クリニック 齊 田 晴 仁

共同企画XXVI ワークショップ (612) 20日(日) 15:10～16:40 169
 音や音楽を題材にしたSTEAM教育の展開
 —教材・評価法・学校教育外における活用—

北海道教育大学旭川校 芳 賀 均
 北海道教育大学釧路校 森 健一郎
 アクトエデュケーション 永 尾 隼

院 生 フォ ー ラ ム

院生フォーラム (612) 20日 (日) 11:00 ~ 12:00 170
研究とテクノロジーの関わり

国立音楽大学	時 得 里 彩
東京音楽大学	五十嵐 梨 奈
東京藝術大学	藤 吉 乙 羽
東京学芸大学	藤 原 改